

# 荒木山通信

2021年4月

第11号

北房文化遺産  
保存会

援をお願い申し上げます。

## 西の明日香村ものがたり

湯神は、往時の美作の国との国境近くに在る。そこには古くから湯荒神様が祀られている。地元の湯川集落で、今でも年に一回祭りを続けていた。湯荒神様の話を聞いていた。湯荒神様の話を聞きたんです」と言うと、

「こここの湯は真賀へ預けとなるんで、新しいゴザを真賀まで敷き詰めりやあ湯が戻つてくる」そう言つて梅野さんは長キセルに火を着けた。

「湯荒神が湯の入った壺を提げてゴザの上を行き来している動画が浮かんだ。神様と人間が一緒に暮らしてゐる。こりやあとんでもねえ古い話じやなあ。」私は

そう思いながら旅館を辞し、すぐ下手の細い谷を十メートルほど上がつた所に在る湯荒神の社へ参つた。そこには、湯荒神の社と並んで

総高一・二メートル（台座共）の堂々とした五輪塔が立つていた。

その五輪塔は、豊臣家重臣の大野主馬が元和元（一六一五）年の大阪城夏の陣で、立つて来た。最新機器を駆使したこの調査は、真庭市・同志社大学・講座生（市民）の三者が協働したもので、参加者にとって胸躍る

## 一回の名称も変更！

県北最古級の荒木山東塚と同西塚を広く紹介する目的で、平成二十八年二月に発足した「荒木山を顕彰する会」が令和二年で五年を経過しました。この間、土地所有者の方々、地域の皆さんにご理解とご協力をいただき、幾度も現地に入らせていただき、掃除などを続けて来ました。

中でも平成三十年と令和元年には、真庭市が開催した北房公民館講座で、東塚と西塚の非破壊調査が実施され古墳の構造や地底の状態がおぼろげながら分かつてきました。最新機器を駆使したこの調査は、真庭市・同志社大学・講座生（市民）の三者が協働したもので、参加者にとって胸躍る

日々でした。この調査の報告については、東塚は行われましたが、西塚についてはコロナウイルス感染対策などもありなされていません。また、令和二年八月十九日の「市長と話そう」で、発掘調査の要望をし快諾を得ましたので、大いに期待しています。

これらの経緯を経て、当会では発掘調査という重要な課題はあるものの、荒木山での活動は一応終え、今後は適時掃除をするなどしてしまった。そして、会の名称を「北房文化遺産保存会」と改め、今までの会員・役員で活動を続けることになりました。今後におきましても、皆さんのご理解・ご支

（北房文化遺産保存会  
代表 久松 秀雄）



【湯荒神の社と五輪塔】

り上がつた黒い眉が備中神樂の能面を思わせた。

「若い衆、今日は何を調べに来たか？」梅野さんの

しづがれた声がした。

で敗れ、落ち延びて境地区で亡くなつたので祀つたと伝える。また、一説には赤

特別寄稿

北房と骨と補欠の学生

同志社大学文化情報学部准教授

津村宏基

私自身の専門は先史人類学・地理学であり、古墳時代の遺物の考古学ではない。岡山大学考古学研究室で学びながら、「墓」から生者の世界の全てを語るような、古墳時代研究に「さっぱり」なじめなかつた。そのため、学生時代は古墳構築の土木・施工や、設計・測量技術の研究を専らに、自然遺物や周辺分布調査などをしていた。

当時の岡山大学考古学研究室は、定北古墳調査の整理、定東塚・西塚古墳の発掘調査と、まさに「西の明日香村」北房の基軸となる調査をしていた。その中で私は『岡大考古の「4番のエース」』からほど遠い、どちらかと言えば「8番ライト」か補欠、あるいは戦力外通告を受けた、ついでに学生だった。

でも、だからこそ分かる

迎えた。県道標識用の古墳のデザインを頼まれれば、それもやつた。分布調査にまわされ、文字通り、中津井・定を離れて、町内のおつちこつちを、「さぼり」歩き回った。

だからこそ、あの頃の学生の中では、きっと誰よりも「古墳以外の北房」に関心があつた学生だつたし、人や地域に触れる人類学・

そんな私には、どうして  
も心残りの「骨の話」があ  
る。若い私には勇気がなく、  
書けなかつた。今も文字に  
するには勇気がいる。

当時、古墳研究の主力選  
手達（監督も）からは戦力  
外通告を受けていた私は、  
“石灰質の石室石材だから  
骨が残る”ことに注視、石  
室から出土する人骨や動物  
骨に目をつけた。動物の供  
儀は特定できなくても、供

最初は“紛れ込んだか？”と思つたが、どうやら土層解釈からするとそうでもない。きつちり第2頸椎より遠位しかなく、狸や<sup>わiesel</sup>狼が死肉を運び込んだとも考えにくい。バイトマークもない。これは、一回目の閉塞石で石室が閉じられる直前（というか同時）にそこに置かれた“頭”なのか。少なくとも肉はついていたは

とあつさり言われた。西本先生は家畜化の研究を進めておられ、「鳥は難しい」といつも言われていたので、まさかねえとは思いつつ、その後、再度一度「まさかねえ」と思いながら、土井二号墳をあたると、なるほど、、、犬か。犬の頭蓋骨か。陶棺の下からねえ。なるほど。

水田村誌は前者を、上房郡誌は後者を推している。なお、五輪塔は、大正二年地理学への関心は、「……で形作られた」と言つても言い過ぎではない。生まれ故郷以外の場所を、こんなに楽しんだ場所は他に無い岡山を離れた後、当時の新納教授と本を出す計画が持ち上がつた。二人とも達筆ということもあり、「缶詰にならなきやダメだ」と詰めた缶は「中津井陣屋」だつた。真冬の“陣屋”は私には酷で、檜風呂で大風邪を引いた。それでも、鮆アラ市や折々に、「ちょっと寄つて」行く故郷であり続けた。

年発行の水田村誌に「湯神に移されている」とあることから、それ以前に何ら物に何か動物はないか?と知りたいと思つた。定東塚は、仏教が日本に伝來した後の古墳であり、畿内には仏教がある。なおさら動物食なり供犠儀礼なりは人類学徒としては知りたいところでもあつた。

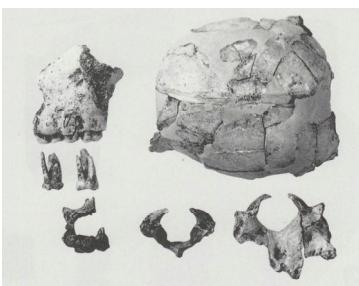
想像通り、定東塚からも西塚からも、人骨・動物骨は出土した。が、その中で一つだけ『異様』な骨があつた。それが、東塚の閉塞石直下(文字通り石の下)から出土した「斬首された猿の頭蓋骨」だ。自分で取り上げたのだから間違い

かの理由で備中川を渡り湯荒神と並び祀られることとなつたのである。

かの理由で備中川を渡り湯荒神と並び祀られることとなつたのである。

ば「吉備大宰」大谷一號墳  
か。確かに中央官人だつ  
た人だよな。畿内から来ら  
れた人、鬼神や邪氣を払う  
力を持つた“川上”から流  
れて来るには、もつてこい  
のイメージ。。そう言えば、  
鬼の城という場所（山）も  
ありますね。県南には温羅  
か。北房はそこを睨むの  
にもつてこい。あ、そう言  
えば、分布調査で歩き回つ  
た“郡神社”的祭神は大吉  
備津命だつたなあ。と、こ  
こまで想像して、「怖くな  
つて」文字化することを  
避けた。  
あれから四半世紀経つた  
今、それでもまだ勇気がい  
る。確かに、考古学的にわ  
かつていることは、数少な  
い。歴史学的にわかつてい  
ることも多くない。しかし、  
それらが西の明日香・北房  
という場所で“こうも積み  
重なる”と、戦力外通告を  
受けた「骨屋」で「分布調  
査屋」だつた学生には、た  
だの偶然には思えなかつた。  
今、いい歳の人類学者と  
して改めてどう思うか、と  
問われれば、「まだ怖い」。  
しかし、これから地域のみ  
んなで”きちんと調査して

※ 特別寄稿をお願いした津村 宏臣氏は、真庭市政策アドバイザーをされています。



## 定東塚出土の猿の頭骨

ば「吉備大宰」大谷一号墳  
かあ。確か、中央官人だつ  
た人だよな。畿内から来ら  
れた人、鬼神や邪氣を払う  
力を持つた“川上”から流  
れて来るには、もつてこい  
のイメージ。。。そう言えば、  
鬼の城という場所（山）も  
ありますね。県南には温羅  
かあ。北房はそこを睨むの  
にもつてこい。あ、そう言  
えば、分布調査で歩き回つ  
た“郡神社”的の祭神は大吉  
備津命だつたなあ。と、こ  
ここまで想像して、「怖くな

いけば“きっと、あの時の「偶然」は、ひょっとすると歴史の「必然」となるかも知れない」と思う。そのため、畠田さんのご厚意もあり、ここで最初で最後の、文章化をしておこうと思う。数十年後、ここ北房が、西の明日香村にして○○伝説の故地となつたとき、「最初にそれを寝ぼけて宣わつた戦力外の先生」として、そしてこの文章がここにあることとなりつつ。

じり編み」という編み方で  
編んだ布のことをいいます。  
縄文の人々はアンギンの衣  
服なども作っていました。

ふるさとセンターの民具  
室にある菰編み機を見て思  
いついた今回の体験講座で  
は、二時間使つてアンギン  
作品を作つてもらいます。

繩文土器づくりなどを開催し、地域の皆さんに楽しんでもらえました。今年は、より北房の歴史や郷土に関心を持つてもらえるような体験を用意していきたいと考えています。

五月二十九日には、「繩文アンギン編み体験」という繩文時代晚期から続く編み物をしていきます。アンギンはコモやムシロ、簾を作る道具や技法が同じで、植物纖維で作った糸を「も

地域おこし協力隊で活動している橘高です。私は、北房ふるさとセンターで歴史体験活動をし、地域の歴史活動を盛り上げたいと動いています。

# 地域の歴史を知る体験講座の実施 アンギンと養蚕



ニモ

この講座に関しては、実際に家で養蚕をやつていたた  
くの方に協力していただき、喜びの声が聞こえて  
くると嬉しいです！糸繰りに使う繭の生産のために、  
蚕を卵と幼虫からちょっとだけ見つけてみることに  
して、ご指導いただけます。嬉しいです！養蚕をしてい  
た頃の話もたくさん教えてください！

興味のある方は是非お越し  
ください。

六月には「北房の養蚕を  
知ろう！」という、北房で  
かつて盛んに行われていた  
養蚕の話を聞き、実際に使  
われていた道具を使って糸  
繰りができる講座を開催し  
たいと考えています。

当会が、本年度から取り組んでおります「西の明日香村・道しるべ整備事業」の活動資金として八十万円の寄付がありました。会では資金確保が課題であつただけに大変感謝しています。

寄付者からは、「古墳など文化財について関心があり、皆さんと一緒に活動したいが仕事の関係で時間が取れない。活動の資金として少しでも役に立てば有り難い。なお、広報の際は匿名としてほしい」旨の文書が添えられていました。

会員の皆さんへお知らせすると共に紙上にて厚くお礼申し上げます。

A close-up photograph showing several silkworms (caterpillars) feeding on green mulberry leaves. The worms are light-colored and have distinct prolegs. The leaves are slightly torn, indicating they are being eaten.

## 桑の葉を食べて いる蚕の幼虫

縄文の北房を尋ねる

北房文化遺產保存會  
顧問

戸村彰孝

近世史学の祖といわれる新井白石は古史通或問のなかで「太古のことはすでに滅んでしまい、わずかに伝え聞くことも、事実のようでもあるし、そうでないようでもある。覚めているようでもあるし、夢を見ていい隱れ、あるいはあらわになつていて」などと、それが事実に近く、その意味がだいたい正しいと判断したところを証拠として、解く必要のあるものを解きあかし、疑わしいものは疑いといつてゐる」と名言を残した。

昨年二月、私はかつて田中角栄の日本列島改造論について開発が進められた中國高速自動車道建設に関係しての「遺跡発掘調査書」を見る機会を得ることができた。北房では、桃山・谷尻・備中平の三遺跡で、いずれも縄文～平安時代までに及ぶ重層遺跡である。

興味を引いたのは、縄文の石器や土器、多数の植物

の種子、と共に谷尻の出土品が約四キロ下流の宮の前に遺跡の出土品と大変類似していることだった。近藤義郎編の岡山県の考古学の縄文遺跡の分布図によれば、県内の遺跡は中国山地の裾野に沿つて東西に伸びている。同一の集団の移動かどうかは分からぬが人の交流を示すものであろう。

あれこれ一年間、縄文に関する本を漁っていたが、やはり「百聞は一見に如かず」ということに気付いて、県の古代吉備文化財センターを訪ねることにした。

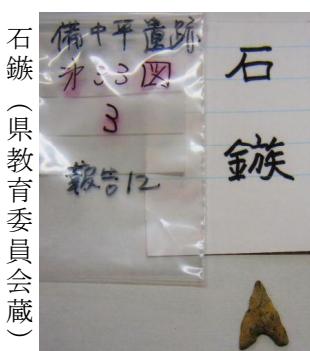
桜の花がチラホラと咲き始めた神道山の参道を上つて三月十九日十三時到着した。玄関に出迎えてくれた調査一課の園さんは、依頼していただいた出土品のある二階の一室に案内してくれた。

机上に大きい白紙を敷き、小さなビニール袋に一つずつ入っている出土品を丁寧に取り出し、説明しながらカメラの前にそつと置いた

数千年の昔が今私と共にあ  
る、という深い感慨におそ  
われた。



石斧（県教育委員会蔵）



(二) 早草劍

(一六、五〇〇年前から)  
旧石器→新石器移行期  
無文土器・隆線土器・  
石鏃など新石器  
大型動物の絶滅、狩猟  
対象は猪・鹿・兔



(三) 前期 縄文確立期 (一一、五〇〇年前から)  
氣候温暖化・日本列島の形成、尖底土器、押方文土器、貝塚の出現、土偶



突帶文土器（県教育委員会蔵）

(五、五〇〇年前から)  
縄文最盛期

温暖化と縄文海進・  
台地居住、人口増、  
前期の五〇十倍、  
東日本二三万人  
西日本一万人、  
大規模集落、装身具

(一)、五〇〇年前から  
繩文確立期

縄文各期の一口メモ  
(私の覚書より)

(私の覚書より)

(五) 後期

(四、四〇〇年前から)  
初期は気候冷涼期あり、  
人口減少、停滞期、  
壺・皿などに精製土器、  
煮炊用深鉢型土器、  
集団内に階層出現  
晚期

(三、三〇〇年前から)  
三、〇〇〇年前まで)  
※ 年代はAMS法による

繩文の終末  
稻作の伝来、冷涼化、  
人口減、キビ・アワの  
耕作、焼畑農耕、  
末期突帯文土器、突帯  
文直前の谷尻式土器

(平井勝)



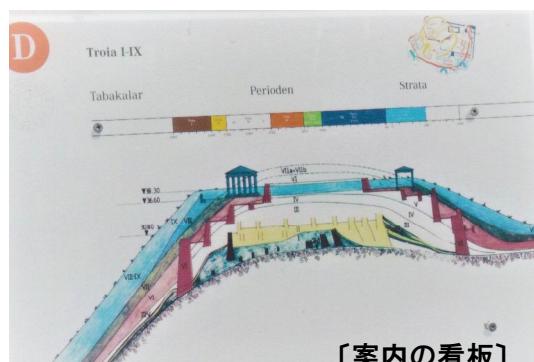
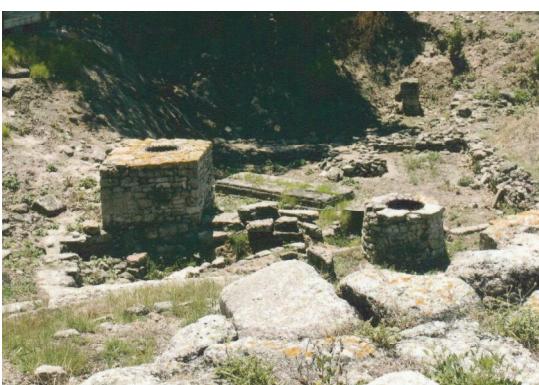
## トロイ遺跡

二〇二〇年六月、古代ローマのファレリイ・ノーヴィーという町を丸ごとレーダー探査し、地図を作ることに成功したというニュースがありました。

レーダー探査と聞けば、荒木山古墳調査に参加した人にはおなじみの非破壊探査技術です。こうした海外の遺跡については触れる機会があまり無いと思います。そこでここでは世界遺産として有名なトロイ遺跡をご紹介したいと思います。

トロイは、ギリシア神話を題材としたホメロスの『イリアス』に出る都市で、ギリシア軍の将オデッセウスによる木馬作戦（いわゆる「トロイの木馬」）によつて一夜にして陥落したとされています。しかし、この話はおそらく創作であろうと考へられています。したがって有名なトロイ遺跡をご紹

島の北西、ダーダネルス海峡に面した町チャナツカレ近郊の丘にあります。五年程前、念願かない、美しいエーゲ海が見える「ヒツサリクの丘」に立つことがきました。



また、現在まで発掘されている遺跡の規模は、都市というより城塞程度であることなどから、この遺跡が伝説上の古代都市トロイであるという決定的な証拠はまだ出ていないというのが現状のようです。

現在も発掘作業は行われているようですが、崩れた石垣や切石が転がっているところが多く、見ただけではよく分かりません。しかし、見学ルートは整備され

れる年代は、第VII層Aだったのですが、シユリーマンの発掘により大きく削られ、ほぼ消失してしまっているのです。

また、現在まで発掘されている遺跡の規模は、都市というより城塞程度であることなどから、この遺跡が伝説上の古代都市トロイであるという決定的な証拠はまだ出ていないというのが現状のようです。

現在も発掘作業は行われているようですが、崩れた石垣や切石が転がっているところが多く、見ただけではよく分かりません。しかし、見学ルートは整備され

ており、順路に従つて見ていくと、あちこちに看板があります。それには、詳細な説明が写真・図などとともに記されています。また、有料ですが、美術展などでよく使われているイヤホンガイドもあります。説明看板の番号から、音声による説明を聞くことができます。稳やかな日差しを浴びながら、のんびりと遺跡や周りの風景を楽しむ人たち。いつの日か、「西の明日香村」「北房でも、こんな光景を見ることができればいいですね。

(平城元)

# 大宰の墓が最有力！

一大谷一号墳の被葬者は？！

古墳の被葬者は、墓誌で  
も出ないと特定できない。  
個人名が分かっているのは、  
天武・持統陵以外には多く  
ありません。

大谷一号墳の被葬者につ  
いてあえて言えば畿内の古  
墳と非常に密接な関係を持  
った古墳であり、また、時  
期が七世紀の終わり頃で古  
墳を造れる階層は限られて  
います。奈良時代の養老律  
令には三位以上という規定  
があり、六四六年の大化の  
薄葬令以後、墓造りに対する規制  
が厳密になつていく可  
能性があります。

大宰律令の三位以上  
といふ規定に照らすと地  
方で該当するの  
は、大宰という役人  
しかいないようであ  
ります。

文献に吉備の大宰  
が出て来ます。吉備  
の大宰は、広島の東  
部から島根・鳥取、  
あるいは兵庫県西部



【講演内容を記した平井勝氏の論文集】



講演中の平井氏

【平成八（一九九六）年  
三月開催のシンポジウム  
「終末期古墳と大谷一号  
墳—被葬者は吉備大宰  
か」における平井勝氏  
の講演の一部を抜粋し  
ました。】

ますと、七世紀後半に北房  
の地域で古墳を造るのは  
大宰しかいないのではないか  
と、いう意見に対しても、大谷  
から東側約二キロに所在す  
それから、地元の有力豪  
族による築造ではないかと  
いふ意見に対しても、大谷  
ではあります。

それに対して大谷は単独  
で築かれ、畿内と密接なつ  
ながりを持つた古墳である  
こと。また、大谷の近くに  
大宰の地名が残っているこ  
となどから、大谷一号墳は  
吉備の大宰の墓が一番有力  
ではないかと思います。

紀の後半と考えられる定北  
の方墳が継続的に一つの屋  
根に築かれています。七世  
紀の後半と考へられる定北  
・四号・五号墳は大谷と同  
じような立地の所に造られ  
ており、地元の有力豪族は  
屋根上に継続して築造して  
いるようです。

二月

まことに大付属ふるさと  
研究所へ参加

一月  
三月

（※新任）

監会庶務事務

役員	久松秀雄
代表	南條保之
幹事	戸村彰孝
顧問	井原隆志

私たちと一緒に北房の文化  
遺産を守り、知らせ、次代  
へ伝えていきませんか！

趣旨に賛同し、入会を希望  
される方は、本会役員にお申  
し出下さい。そして、年会費  
三千円を入会時に納入下さい。  
会員へは、当会の活動状況  
や計画をお知らせするほか、  
当会や真庭市が開催する歴史  
関係の研修会・講演会なども  
案内します。

なお、本会発行の「荒木山  
通信」は、北房振興局・北房  
文化センター・北房ふるさと  
センターに置いてあります。

令和三年度の活動

一月  
総会

決算・予算、活動報  
告や計画案の審議。  
会則や役員について  
等。新型コロナウイ  
ルス感染拡大のため  
書面による。

三月  
役員会

会則の変更や西の明  
日香村・道するべ整  
備事業について協議  
道するべ整備事業の  
実施（マップの作成、  
看板の設置場所の選  
定と看板の製作・設  
置等）

五月  
（予定）

古墳調査への協力  
柴搔き・草刈り  
(荒木山古墳)

四月  
役員会

柴搔き・草刈り  
雨天のため中止。秋  
に実施予定。